HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	顔師古漢書音義の研究（下）
Author(s)	大島, 正二
Citation	北海道大學文學部紀要, 19(4), 1-85
Issue Date	1971-03-30
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/33365
Type	departmental bulletin paper
File Information	19(4)_PL1-85.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

顔師古漢書音義の研究（下）

大　島　正　二

第3部　本　　論*

3．1．　声　　類

声類の考察に当り，準拠する切韻（広韻）の声類を次の如く分類する。[1)]

- 唇音
  - 重唇音　幫 p-・滂 p'-・並 b'-・明 m-
  - （軽唇音　非 f-・敷 f'-・奉 v'-・微 m-　）
- 舌音
  - 舌頭音　端 t-・透 t'-・定 d'-・泥 n-・来 l-
  - 舌上音　知 t̂-・徹 t̂'-・澄 d̂'-・娘 n̂-
- 歯音
  - 歯頭音　精 ts-・清 ts'-・從 dz'-・心 s-・邪 z-
  - 正歯音二等　莊 tṣ-・初 tṣ'-・崇 dẓ'-・生 ṣ-・俟 ẓ-
  - 正歯音三等　章 tś-・昌 tś'-・船 dź'-・書 ś-・常 ź-・日 ńź-・羊 j-
- 牙喉音　見 k-・溪 k'-・羣 g'-・疑 ng-・暁 x-・匣 γ-・影 ʾ-・于 ɦ-

以下，上掲の声類別に従い，注音用字上，特徴的と見られる点に就いて述べる。尚，個々の音注例の意味に関する記述は，特に問題になる場合を除いて省略する。

3．1．1．　唇　　音

(1)　切韻（広韻）の体系には存在しなかった唇歯・摩擦音の軽唇音の

＊　この小論は本紀要XVII－1（1969）所載の「顔師古漢書音義の研究（上）」（以下「漢書音義（上）」と略称）に続くもので，本論の中，声類を扱う。韻類に就いては，拙稿「顔師古漢書音義韻類考」言語研究59（1970）で述べた。尚，論述上，本稿にそれ等と重複する点もある。

1)　この声母表は唇音の欄に重唇音とは別に軽唇音を加えたこと，‘組’名を中国音韻学に於ける伝統的呼称に替えたこと，参考のために一応の目安としての転写音を併記したことの他は拙稿「漢書音義（上）」p.52に掲げた声母表と同じであるが，便宜を考えて改めてここに記す。尚，各声母に付した転写音は，河野六郎「朝鮮漢字音の研究」天理時報社（1968）p.50に見られるものに拠った。只，同書に見られない《俟》母の転写音は筆者が他を参考にして付した。

＋ 系列《非・敷・奉・微》が両唇・閉鎖音の重唇音の系列《幫・滂・並・明》とは別に認められる。[2]（cf. 資料）

又，切韻（広韻）の体系では重唇音と軽唇音が未分化であったために，帰字の語頭子音が重唇音である反切に後に軽唇音化する声母を以て切する例が切韻（広韻）には多いが，それ等が師古音注で重唇音声母に改められている例が見られる。

◦広韻[3]《非》/ 師古《幫》

幽：府巾/ 彼閑（710下9）[4]，猋：甫遙/ 必遙（238下5，590上13，659上13，719下18），飄[A]：甫遙/ 必遙（1041下2），杓：甫遙/必遙(196上15)，標：甫遙/ 必遙（1018上7），砭：府廉/ 彼廉（451上5），玢：府巾/ 彼旻（710下9），彬：府巾/ 彼旻（820下9），熛：甫遙/ 必遙（1040上13，1289上20），*猋[B]：甫遙/ 必遙（360上1，705下10，712下10），*猋[C]：甫遙/ 必遙（581上5）

A）広韻，「飆」に作る。

B）漢書に見られる被注字は「猋」（広韻：以贍切，火華也）であるが，師古は〝疾風也〟と説く。朱駿声「説文通訓定声」（以下「定声」と略称）の〝猋猋炎揚光飛文又為猋之誤字〟[5]に拠り，師古音を広韻に見られる「猋」音と比較する。尚，本稿では，このようにして求められる仮借字は左肩に＊印を付して示す。

C）漢書に見られる被注字は「飄」(広韻：符霄切又撫招切)であるが，師古注〝飄読曰猋〟に拠り，師古音を広韻に見られる「猋」音と比較する。

---

2) 軽唇音の系列はⅢB韻類(cf.拙稿「漢書音義（上）」pp.51－52）の中，蒸韻を除く諸韻に見られる。但し，東韻及び尤韻の《明》母に限って軽唇音化は起らなかった。尚，この点に就いては，河野六郎「唐代長安音に於ける微母に就いて」東京教育大学中国文化研究会会報4－1（1954）参照

3) 以下，細部の問題を除き，広韻（周祖謨「広韻校本附校勘記」中華書局,1960）を以て切韻に代用させる。

4) 「縮印百衲本二十四史　漢書」商務印書館（1958）に見られる箇所（710頁下段9行目）を示す。以下同様。

5) 引用は丁福保編「説文解字詁林及補遺」台湾商務印書館（1959)(以下「詁林」と略称）に拠る。

◦広韻《敷》／師古《滂》

坏[A]：芳杯／普回（1049下3），亨：撫庚／普庚（265下5，282上9，453上6），扁：芳連／匹延（1088下6），縹：敷沼／匹妙（1186下3）・匹遙（601下2），摽：撫招／匹遙（866上9，1225下5）

A）広韻，「坯」に作る。

◦広韻《奉》／師古《並》

煏[A]：符逼／蒲北（1090上13），瓢：符霄／頻遙（808上8，1088下17），芟：苻少／頻小（269下2），裨：符支[B]／頻移（683下19，1112上16），辟：房益／頻亦（464下7，834上13），*邳[C]：符悲／皮彼（425下13），*甓[D]：扶歴／避歴（1085下14），[illegible]：房連／歩田（705上8），緶：房連／歩千（607上7，833上6）

A）広韻，「[illegible]」に作る。

B）「王二」には〝頻移反〟とある。

C）漢書に見られる被注字は「伾」（広韻：敷悲切，有力）であるが，師古注〝鄭氏曰山一成為伾〟に拠り，師古音を広韻に見られる「岯」（広韻：山再成也）音と比較する。

D）漢書に見られる被注字は「辟」（広韻：房益切，便辟，又法也，…）であるが，師古注〝辟，甎甎也〟に拠り，師古音を広韻に見られる「甓」（広韻：瓴甓，甎甎也）音と比較する。

◦広韻《微》／師古《明》

鱨：武亘／莫鄧（708下10），黽：武幸／莫幸（63上2），[illegible]：武板／莫限（1284上10），黽：武盡／莫忍（393下19），杪：亡沼／莫小（1234上10），眇：亡沼／莫小（201下12），票：撫招／匹昭（1047上16）・匹遙（232下4）

◦広韻《非》／師古《滂》

熛：甫遙／匹遙（1038下17）

例外：

阪：府板（958下12），藐：武卓（781下18），*弭[A]：亡俾（672下14），靡：武皮（614上11，1016上10，1080上6，1211上10，1269上16），

繆：亡虬（930下17），縉：武巾（60下14，262上15），岷：武巾(101上20），　謢：武連（881上５），貿：武又（695上18）

Ａ）漢書に見られる被注字は「彌」（広韻：武移切，益也，長也，久也，亦姓…）であるが，師古は〝李奇曰彌節少安之貌〟と説く。高翔麟「説文字通」の〝弭通彌漢李広傳彌節白檀韻会通作弭〟[6]に拠り，師古音を広韻に見られる「弭」音と比較する。

以上は「阪」を除き，何れも《明》母字である。この中，「縉」，「岷」は広韻に見られる反切と用字も同じく，或は伝統的反切をそのまま写したものであろうか。又，「弭」には〝莫爾反〟と重唇音声母を以て注されている例（1044下９）も見られる。或いは，唇音中,《明》母に限って軽重の分離に未だ動揺が有ったとすべきであろうか。

上述のことを併せ考えるなら，師古音の体系では既に軽唇音が存在していたと解釈し得るであろう。平山久雄氏に依ると，軽唇音の音韻としての独立は中舌・奥舌主母音を有する諸韻の中，唇・牙・喉音声母と結合するＣ類韻母（本稿でのⅢB韻類[7]の中，唇･牙喉音声母と結合する韻母）と重紐による対立を有する諸韻の中，韻図の三等に配されるＢ類韻母（本稿でのⅢA韻乙類[7]）との合流に伴なってはじめて生ずると言う[8]。韻類で見る如く，師古音に平山氏のＣ類とＢ類の韻母の通用が広範に見られることから，師古音の体系では既に音韻としての軽唇音が独立していたと見られようか。これ迄の研究に拠ると，軽唇音の存在は慧琳の一切経音義[9]の反切では明確に認められるが，切韻成書後60

---

6) 引用は「詁林」上引書，に拠る。

7) cf．拙稿「漢書音義（上）」pp．51－52

8) cf．平山久雄「唐代音韻史に於ける軽唇音化の問題」北海道大学文学部紀要XV－2（1967）p.18その他。

9) 以下，慧琳の一切経音義に関する問題は総て，黄淬伯「慧琳一切経音義反切攷」歴史語言研究所専刊之六（1931）．及び，河野六郎「朝鮮漢字音の研究」前引書，に拠る。

年遅れる玄応音義[10]では未だ軽・重が区別されず，玄応より更に約60年後に成った慧苑音義[11]に始めて（音声的な意味での？）軽唇音が重唇音と分離して認められることから，北方標準音に於ける軽唇音化の時期[12]を唐代中葉以降に求めるのが一般のようであるが，師古に軽唇音の独立を指摘できることから，それを遅くとも初唐に迄引き上げることが可能のようである。

(2) 清声母《幫・非》・次清声母《滂・敷》と濁声母《並・奉》との混同を示す例がある。

◦広韻《敷》／師古《奉》

拂：敷勿／音　佛（1251下19）[A]，｛紛：府文／扶云　（181下）｝[13]

A）本例は広韻で師古音と同音を示す仮借字 *鄜（広韻：符弗切）も求められる。cf. 資料，ⅢB韻類・臻摂（11）

◦広韻《奉》／師古《敷》

泛：孚梵／敷劍（1100下9），*鴇[A]：符分／音　芬（1071下11），｛復：房六／芳福（688下17）｝，｛汾：符分／音　紛（1047下12）｝[B]

A）漢書に見られる被注字は「鵠」（広韻：胡葛切）であるが，師古注〝字本作鴇此通用耳〟に拠り，師古音を広韻に見られる「鴇」音

---

10) 以下，玄応音義に関する問題は総て，周法高「玄応反切考」歴史語言研究所集刊20本上（1948）．に拠る。

11) 以下，慧苑音義に関する問題は総て，水谷真成「慧苑音義音韻攷－資料の分析」大谷大学研究年報第11集（1959）．に拠る。

12) 南方標準音を映すと説かれる顧野王（A.D. 519－581）の「玉篇」（543成書）に，重唇音と軽唇音の反切用字上に於ける区別の傾向が《幫・滂・並》三母に認められると言う。（cf. 周祖謨「萬象名義中之原本玉篇音系」『問学集』上冊所収，中華書局，1966）

13) 師古音が切韻（広韻）音と「ずれ」を示す例の中，師古に依る義注や文脈に拠って知られる被注字の意味が同字の広韻に記載されている意味と異なる場合であっても，それは切韻（広韻）に採録されている某字に何某義が記されていないのは、当時その何某義を某字で表わす社会習慣が有ったにもかかわらず，偶，切韻（広韻）に記録されなかったにすぎない場合も考えられるので，その「ずれ」が中国語音韻史の史的変遷に沿うと解釈される音注例は傍證例として｛｝内に入れて示す。

と比較する。

B）本例は広韻で師古音と同音を示す仮借字 *紛（広韻：蒲悶切）も求められる。cf. 資料，ⅢB韻類・臻摂(7)

◦広韻《幫》／師古《並》

陂：彼義／皮義（665上10），濱：必鄰／音頻（691上1，704上5），[A)] {番：博禾／蒲河（1226上5）・蒲何（24下4，111下1，461上14，486上9）}

A）本例は広韻で師古音と同音を示す仮借字 *頻（広韻：符真切）も求められる。cf. 資料，ⅢA韻類・臻摂（3）

◦広韻《並》／師古《幫》

棓：薄回／音 枹（618下3），悖：蒲昧／布内（1084下18）[A)]，{敝：毗祭／音 蔽（244上9）}[B)]

A）本例は広韻で師古音と同音を示す仮借字 *誖（広韻：補妹切）も求められる。cf. 資料，Ⅰ韻類・蟹摂（22）

B）本例は広韻で師古音と同音を示す仮借字 *蔽（広韻：必袂切）も求められる。cf. 資料，ⅢA韻類・蟹摂（8）

◦広韻《滂》／師古《並》

*蠯[A)]：匹北／蒲北（356下19），僄：匹妙／頻妙（1015下18），剽：匹妙／頻妙（419下13，586上5，597下9，857下8），慓：匹妙／頻妙（12下10），嘌：匹備／皮祕（216下7），犥：普蔑/歩結(713下14)，{番：普官／歩安（865上13）}

A）漢書に見られる被注字は「蝮」（広韻：芳福切，蝮蛇又姓）であるが，師古注〝爾雅曰，蠯，蝮蜪説者以為螽蝗之類〟に拠り，師古音を広韻に見られる「蠯」（広韻：蠯蝗，蟲名）音と比較する。

◦広韻《並》／師古《滂》

皤：薄波[A)]／蒲河（1293上17）

A）「皤」字の読音には〝薄波切〟の他に《幫》母を上字とする〝博禾切〟も広韻に見られるが，ここでは現代北方音に照らして〝薄波切〟を師古音との比較の対象に採る。

◦広韻《非》／師古《並》

{卑：府移／音　脾（185下）}

◦広韻《敷》／師古《並》

亨：撫庚（21上9），愊：芳逼／平力（508上16）・皮逼（861下7）

◦広韻《奉》／師古《滂》

嫳：符真／匹人（1233下14）

濁声母の無声化は唐代音韻史の上で顕著な音声・音韻変化の一つとして指摘される。そして，濁声母は有声音であって，清声母との対立を成す示差的特徴は有声：無声にあり，而も唐代に至る迄それが保たれていたとする観点からすれば，上掲の師古音注例は何れも濁声母の無声音化，即ち唐代に於ける史的変化を示すと解釈し得よう。併し乍ら，濁声母が北方音で明瞭な有声音であったか否かに就いては疑点も有る[14]。後に触れる《従・邪》両母及び《船・常》両母が各々「玉篇」に於ては混同しているのに対し，切韻の体系では区別されていることも，北方音の有声度の低さを示すものと解し得るのではないであろうか。若しそうであれば，師古注音に見られる清：濁の混同例は，実は通時的ではなく，共時的な観点から解釈さるべきであろう。濁声母の問題には困難な点も有り，その解決は将来に委ね，本稿では，北方音に於ける濁声母の有声性は唐代初期には既に明確ではなく，濁：清の対立は有声性：無声性にあるのではなく，その示差的特徴は他の要素，例えば声調など，に求め得る可能性も皆無ではないであろうことに触れておく。尚，濁声母に関してはその有声性の他に帯気性の有無が問題となる[15]。若しその帯気性を認めるなら，次清声母と濁声母との混淆例は

14) cf. 河野六郎「朝鮮漢字音の研究」上引書, p. 50, 同「故有坂秀世博士遺稿『上代音韻攷』」国語研究5（1956）pp. 69－70, 三根谷徹「韻鏡と越南漢字音」言語研究48（1965）pp. 13－22

15) cf. Henri Maspero, *Le dialecte de Tch'ang-ngan sous les T'ang*, BEFEO, XX-2（1920）, 北京抽印影印本（1931）pp. 27－29, Bernhard Karlgren, *Etudes sur la phonologie chinoise*, Archives d'études orientales publiées par J.-A. Lundell, vol. 15（1915－1926）, 北京影印本（1931）pp. 356－360 その他，高本漢著，趙元任・羅常培・李方桂合訳「中国音韻学研究」商務印書館（1940），台湾影印本（1962）pp. 251－254その他。

濁声母の有声性を疑わしめる論拠の一つにもなり得ようし，又，その帯気性を認めなければその混淆例は，或は，初唐に於ける濁声母の有気音化[16]を示すものと解釈されようか。

(3) 清声母《非》と次清声母《敷》との混同を示す例がある。

◦広韻《敷》／師古《非》

覆：芳福／方目（93上20，639下10），芾：敷勿／音 弗(216下1），

菲：芳非／音 扉（64下3），*鬅[A]：芳未／音 沸（228上2）

A）漢書に見られる被注字は「憑」（広韻：房密切，輔也）であるが，師古注〝放憑猶髣髴也〟に拠り，師古音を広韻に見られる「髴」（広韻：髣髴）音と比較する。

《非》母と《敷》母は《幫》母と《滂》母とが各々一定の音韻的条件の下で変化したものであるが，その音価に就いては論の有るところである。Maspero 氏と Karlgren 氏は摩擦音に於ける有気：無気の区別が実際上可能か否かを論じ[17]，黄淬伯氏は慧琳音義の，周法高氏は玄応音義の反切例に基づき《非》《敷》両母に就いて論じている[18]。摩擦音に於ける有気：無気は，若し有気の摩擦音の帯気の程度が強く，一方，無気の摩擦音が〔f'〕で表わし得る喉頭化摩擦音[19]であったと仮定するなら，これ等両者の区別は実際上も不可能とは言えないであろう

---

16) 北方標準音では，唐代から近世音への推移の中で，濁母の平声は無声有気音化し，仄声は無声無気音化すると一般に説かれる。

17) cf. H. Maspero, *Etudes sur la phonétique historique de la langue annamite*, BEFEO 12 (1912) p. 39, *Le dialecte de Tch'ang-ngan sous les T'ang*, 前引論文 pp. 37－39, B. Karlgren, *Etudes sur la phonologie chinoise*, 前引論文 p. 553, 華訳本 p. 416

18) cf. 黄淬伯「慧琳一切経音義反切攷」前引論文 21丁ウ－22丁，周法高「玄応反切考」前引論文 pp. 399－401. この点に関しては，平山久雄「唐代音韻史に於ける軽唇音化の問題」前引論文 p. 57f. を参照。尚，付言すれば，摩擦音に於て有気音と無気音とが区別される方言（言語）には平山氏が同論文p. 57，註(6)で掲げた蕪湖県方村方言（f: f', s: s', ʂ: ʂ', φ: φ'），ビルマ語（s: sh）の他に黒苗方言（/ f: fh. s: sh, ɬ: ɬh, š: šh/）も有る。cf. 拙稿，*Preliminary Study on a Black Miao Dialect: Phonology*, 本紀要XIX－3（1970）

19) *cf. 服部四郎「音声学」岩波書店 (1956⁶) pp. 141－142*

が，《非》《敷》両母は発生と同時に音価を等しくしたことも充分考えられる。反切用字上は両声母が分れて混淆しなくとも，それは重唇音時代からの伝統から完全に脱し切れず，軽唇音化後もそれを踏襲している場合も考えられるので，それを以て直ちに両声母が明確に区別されていたとするには難点も有り，却って《非》《敷》両母の混同を示す少数の音注例が当時の音韻状態を反映しているとも解され，これ等両母は初唐の関中音で音価を同じくしていた蓋然性は大きい。ただ本稿では，充分な資料を欠くのでその何れとも論断することは控え，初唐関中音で《非》《敷》両母は同一音価を有していたのではないかと思われることを述べておく。

3．1．2．　舌　　音

(1)　舌頭音の《泥》母と舌上音の《娘》母との混同を示す例がある。

◦広韻《泥》／師古《娘》

淖：奴教／女教（663上12），橈：奴交／女教（636上１）・女孝（948上１），*橈[A]：奴交／女教（820下11，1108下７），*[illegible][B]：乃庚（603上17），攝：奴協／女涉（715下３），{赧：奴板／女版（115上20）}，{籥：奴協／音　躡（232上９）・女涉（337上12）}[C]

A）漢書に見られる被注字は「撓」（広韻：奴巧切，撓亂）であるが，師古は〝曲也〟（820下11），〝弱也〟（1108下７）と説く。「定声」の〝撓為橈晋語抑撓志以従君注屈也呂覽知度枉辟邪撓之人退矣注曲也高義則荆國終為天下撓注弱也〟[20]に拠り，師古音を広韻に見られる「橈」音と比較する。

B）漢書に見られる被注字は「攘」（広韻：汝陽切，以手禦，又竊也）であるが，師古は〝晋灼曰…傖攘亂也〟と説く。段玉裁「説文解字段氏注」の〝搶攘疊韻本在陽庚韻転入庚韻攘即[illegible]之仮借〟[21]に拠り，師古音を広韻に見られる「[illegible]」音と比較する。

---

20)　引用は「詁林」前引書，に拠る。

21)　引用は「詁林」前引書，に拠る。

C）本例は広韻で師古音と同音を示す仮借字 *鑷（広韻：尼輒切）も求められる。cf. 資料，ⅢA韻類・咸摂(3)，(4)

◦広韻《娘》／師古《泥》

女：尼據／及據（1296上4）

《娘》母が独立した声母であるか否かに就いては，これ迄にも論の有るところであるが，[22]初唐関中音では《泥》《娘》両母に区別はなく，一類であったと推定できそうである。

(2) 舌頭音の《端・透・定》母と舌上音の《知・徹・澄》母は分かれていると見られる(cf. 資料)。これ等は切韻，玄応では大勢としては分離されているが混淆も見られるのに対し，慧苑，慧琳では明確に分けられている。

例外：

◦広韻《端》／師古《知》

鶵：丁滑〈鶵雀〉／竹滑〈南都賦曰帰鴈鳴鶵〉（706下15）

◦広韻《知》／師古《定》

謫：陟革〈責也〉／徒戹〈責也〉（1260上17）

舌上音が舌頭音で示される例は類隔切と呼ばれ，六朝末期，陸徳明（A.D.？－630）の著わした「経典釈文」(583－589成）に数多く見られ，この類隔切は舌音が六朝迄一類であり一定の音韻的条件の下でそれが舌頭・舌上両音に分かれたとする論拠の一つになっている[23]が，唐代関中音に於て《泥》《娘》両母を除く両音が，尚，混同していたとは考え難く，個別的読音と解すべきであろう。

(3) 清声母《端・知》・次清声母《透・徹》と濁声母《定・澄》との混同を示す例がある。[24]

---

22) B. Karlgren, *Etudes sur la phonologie chinoise*, 前引論文 p.54ff, 華訳本p.35ff.

23) cf. 有坂秀世「上代音韻攷」三省堂（1955）pp. 303－308

24) cf. 3.1.1,（2）

1）舌　頭　音

◦広韻《端》／師古《定》

｛敦：都昆／徒本（506下13）・徒門（63下15，1156下7）・音　屯（1038下20）｝[A)]

A）　本例は広韻で師古音と同音を示す仮借字 *沌（広韻：徒損切）も求められる。cf. 資料，Ⅰ韻類・臻摂（8）

◦広韻《透》／師古《定》

洮：土刀／徒高（216上9），湯：他浪／徒浪（413上7）・音　宕（395上18），｛他：託何／徒何（465下7）｝[A)]，｛它：託何／徒何（1157下8）・徒河（713上6）｝[B)]

A）本例は広韻で師古音と同音を示す仮借字 *駄(広韻：徒河切)も求められる。cf. 資料，Ⅰ韻類・果摂（17）

B）本例は広韻で師古音と同音を示す仮借字 *駄(cf. A）も求められる。cf. 資料，Ⅰ韻類・果摂（18），（19）

◦広韻《定》／師古《透》

沓：徒合／它合（1198上17），闥：徒盍／吐盍（601上10）・吐合（763上10），*蹋[A)]：徒蓋／吐獵（1186下13），棣：特計／音　替(194下18），｛駘：徒哀／音　胎（174下）｝[B)]，｛騲：徒干／它丹（1296上2）｝[C)]，｛挺：徒鼎／吐鼎（939下17）｝[D)]

A）漢書に見られる被注字は「闥」（広韻：許及切，戟名曰闥）であるが，師古注〝闥茸，衆賤之称也〟に拠り，師古音を広韻に見られる「蹋」（広韻：踏）音と比較する。

B）本例は広韻で師古音と同音を示す仮借字 *台（広韻：土來切）も求められる。cf. 資料，Ⅰ韻類・蟹摂（2）

C）本例は広韻で師古音と同音を示す仮借字 *嘽（広韻：他干切）も求められる。cf. 資料，Ⅰ韻類・山摂（19）

D）本例は広韻で師古音と同音を示す仮借字 *梃（広韻：他鼎切）も求められる。cf. 資料，Ⅳ韻類・梗摂（7）

2）舌　上　音

◦広韻《知》／師古《澄》

{致：陟利／直二（710下 5）}[A]，{著：陟慮／直庶（331下 5，401上 8，532上 2，420下19）}[B]，{徵：陟陵／音　懲（393上 9，427下7）}[C]

A）本例は広韻で師古音と同音を示す仮借字 *緻（広韻：直利切）も求められる（？）。cf. 資料，ⅢA韻類・止摂（61）

B）本例は広韻で師古音と同音を示す仮借字 *箸（広韻：遅倨切）も求められる。cf. 資料，ⅢB韻類・遇摂（8）

C）本例は広韻で師古音と同音を示す仮借字 *懲（広韻：直陵切）も求められる。cf. 資料，ⅢB韻類・曽摂（7）

◦広韻《澄》／師古《知》

紵：直呂／張呂（509下 7）・竹呂（629上18）

◦広韻《澄》／師古《徹》

{滞：直例／丑制（708上18）}[A]

A）本例は広韻で師古音と同音を示す仮借字 *蔕（広韻：丑例切）も求められる。cf. 資料，ⅢA韻類・蟹摂（1）

3．1．3．歯　　音

(1) 歯頭音は一等と四等による別はなく一類と見られる（cf. 資料）。切韻，玄応に於ても同じく，慧苑では一・四等は各々独立する大勢にあり，慧琳では両者は明瞭に分けられている。

(2) 正歯音の二等と三等とは各々独立していて混同は見られない（cf. 資料）。この両者の区別は切韻，玄応，慧苑，慧琳を通じて明確である。

(3) 師古注音例に《船》《常》両母の混同を或は示すかも知れない一例，視：〔広韻〕常利切(《常》母)，看視／〔師古〕音　示(《船》母)，本文〝…於長安以視諸蠻夷（1249下 3），…四方盗賊多欲視為…（1261下 5）が見られるが，これには広韻で師古音と同音を示す仮借字 *示も求められ（cf.「定声」〝視為示…漢書高帝紀亦視項羽無東意注漢書多以視為示古通用字…）[25]，この一例のみを以ては両声母の混淆は推

25) 引用は「詁林」前引書，に拠る。

測し難い。やはり，師古の方言に於ける両声母は分かれていると見るべきであろう（cf. 資料)。《船》《常》両母は江東音を映すと説かれる「玉篇」に於ては混淆し，又，同方言では既に六朝末期，隋代には混用されていたらしいことは「顔氏家訓」に見られる〝則南人以錢(《従》母字)[26]為涎(《邪》母字)，以石（《常》母字）為射(《船》母字)，以賤(《従》母字）為羨（《邪》母字），以是（《常》母字）為舐（《船》母字)〟[27]の記述等から知ることができるが，切韻，玄応，慧苑に於てはこれ等は混淆せず，秦音系では慧琳以降次第に混同する。尚，《従》《邪》両母も師古音では分かれていて混ずる例は見られない（cf. 資料)。

(4) 清声母《精》・次清声母《清》と濁声母《従》との混同を示す例がある。[28]

◦広韻《精》／師古《従》

遒：即由／字由（400上12)[A]，{焦：即消／在消(1285上2)}[B]，{節：子結／才結（700下12)}[C]

A）本例は広韻で師古音と同音を示す仮借字 *遒（広韻：自秋切）も求められる。cf. 資料，ⅢB韻類・流摂（7）

B）本例は広韻で師古音と同音を示す仮借字 *憔（広韻：昨焦切）も求められる。cf. 資料，ⅢA韻類・效摂（22）

C）本例は広韻で師古音と同音を示す仮借字 *岊・*截（広韻：昨結切）も求められる。cf. 資料，Ⅳ韻類・山摂（12）

◦広韻《従》／師古《精》

雋：徂兖／子兖（583上3），*憔[A]：昨焦／子笑（223上20），疵：疾移／音　貲（709上5)[B]，嶊：昨回／将水（709上14)[C]，{芓：疾置／音　子（254下2)}[D]，{倢：疾葉／音　接（70下4，1179下9)}[E]

A）漢書に見られる被注字は「瘯」（広韻：側教切，縮也，小也）で

26) 括弧内は引用者注。

27) 引用は，周法高「顔氏家訓彙注」歴史語言研究所専刊之四十一（1950）に拠る。

28) cf. 3.1.1,（2）

あるが，師古は〝瘯瘁謂減縮也〟と説く。「集韻」の〝憔，憔悴，憂患也，或从疒〟[29]に拠り，師古音を広韻に見られる「憔」音と比較する。

B）本例は広韻で師古音と同音を示す仮借字 *鴦（広韻：即移切）も求められる。cf. 資料，ⅢA韻類・止摂（25）

C）本例は広韻で師古音と同音を示す仮借字 *嗺（広韻：遵誅切）も求められる。cf. 資料，ⅢA韻類・止摂（117）

D）本例は広韻で師古音と同音を示す仮借字 *秄（広韻：即里切）も求められる。cf. 資料，ⅢA韻類・止摂（74）

E）本例は広韻で師古音と同音を示す仮借字 *婕（広韻：即葉切）も求められる。cf. 資料，ⅢA韻類・咸摂（5）

◦広韻《清》／師古《従》

憯：七感／才感（964下9），愀：親小／材小（714下12）

◦広韻《従》／師古《清》

粗：徂古／千戸（717上11），｛萃：秦醉／音　翠（706上8）｝[A)]

A）本例は広韻で師古音と同音を示す仮借字 *翠（広韻：七醉切）も求められる。cf. 資料，ⅢA韻類・止摂（118）

3．1．4．牙　喉　音

(1) 切韻や玄応に見られる特徴と同じく，牙音《見・溪・羣・疑》は一・二・四等一類，三等一類と二類に分かれて，四等字の独立は指摘できない（cf. 資料）。四等字の独立は慧苑にその顕著な傾向を認め得るが，慧琳に於てはそれは明確となり，一・二等，三等，四等の三類に分かれている。

(2) 清声母《見》・次清声母《溪》と濁声母《羣》との混同を示す例がある。[30]

◦広韻《見》／師古《羣》

埢：居轉／音　拳（1040下2）[A)]，谻：几劇／音　劇（705下16，713

29) 引用は「集韻」新興書局（1959）に拠る。

30) cf. 3.1.1,(2)

上５），迋：倶往／求往（369上10），兢：居陵／鉅陵（1038上４），鮈：擧朱／音　劬（667上13）[B]

Ａ）師古は〝埢垣圜皃也〟と説く。師古音は或は広韻に見られる「𢍰」（広韻：巨員切，曲角）音と比較さるべきか。「𢍰」を採れば，声・韻母の「ずれ」はなくなる。

Ｂ）本例は広韻で師古音と同音を示す仮借字 *眴（広韻：其倶切）も求められる。cf. 資料，ⅢB韻類・遇摂（49）

◦広韻《羣》／師古《見》

黚：巨淹／紀炎（405上13），期：渠之／音　基（936下14）・音　朞（61上16）[A]，檠：渠京／音　警（679下17）[B]，{寒：其偃／居偃（719下13）}[C]，極：渠力／居力（430下８）[D]，{彊：巨良／居良（500下11）}[E]

Ａ）本例は広韻で師古音と同音を示す仮借字 *朞（広韻：居之切）も求められる。cf. 資料，ⅢA韻類・止摂（89）（90）

Ｂ）本例は広韻で師古音と同音を示す仮借字 *檄（広韻：居影切）も求められる。cf. 資料，ⅢA韻類・梗摂（12）

Ｃ）本例は広韻で師古音と同音を示す仮借字 *蹇（広韻：居偃切）も求められる。cf. 資料，ⅢB韻類・山摂（２）

Ｄ）本例は広韻で師古音と同音を示す仮借字 *愐（広韻：紀力切）も求められる。cf. 資料，ⅢB韻類・曽摂（14）

Ｅ）本例は広韻で師古音と同音を示す仮借字 *疆（広韻：居良切）も求められる。cf. 資料，ⅢB韻類・宕摂（14）

◦広韻《溪》／師古《羣》

邔：墟里／其巳[A]（397下17）・鉅己（142下），屈：區勿[B]／鉅勿（728下６）・求勿（126下）・其勿[A]（69上４，189上，584下16，717上１，811下14）・具勿（584下２），{詘：區勿／其勿[A]（705下16）}，{躩：丘縛／鉅縛（720上２）}[C]

Ａ）「其」字には《羣》母の他に《見》母の読音も広韻に見られるが，師古では「其」字は《羣》母を表わす反切上字として用いられていると認められるのでここに置く（cf. 資料）。

B）「屈」字の読音には〝區勿切〟の他に《見》母字を反切上字とする〝九勿切〟も広韻に見られる。ここでは現代北方音に照らして〝區勿切〟を師古音との比較の対象に採ったが，本例は或は《見》《羣》両母の混同を示す例とすべきか。

C）本例は広韻で師古音と同音を示す仮借字 *趨（広韻：具籲切）も求められる。**cf.** 資料，ⅢB韻類・宕摂（17）

◦広韻《羣》／師古《溪》

{拳：巨員／去權（677上13）}，{偈：其憩／起厲（856下11）}[A]，{嶠：渠廟／去昭（1043上9）}[B]

A）本例は広韻で師古音と同音を示す仮借字 *愒（広韻：去例切）も求められる。**cf.** 資料，ⅢA韻類・蟹摂（4）

B）本例は広韻で師古音と同音を示す仮借字 *蹻(広韻：去遙切)も求められる。**cf.** 資料，ⅢA韻類・效摂（30）

(3) 《暁》母と《匣》母との混同を示す例がある。

◦広韻《暁》／師古《匣》

*頯[A]：荒内／胡内（572下4）[B]，*渙[C]：火貫／胡貫（418下5），繢：呼麥／音 獲（12上11），*螾[D]：香兗／下兗（1039下9），詬：呼候／音 后（611下19）[E]

A）漢書に見られる被注字は「沫」（広韻：無沸切）であるが，師古注〝沫亦頯字也〟に拠り，師古音を広韻に見られる「頯」音と比較する。

B）同義を表わす別例（229下19，763下15，1186下15）に，師古は〝呼内反〟と《暁》母を以て注していることからも師古の方言に於ける《暁》《匣》両母の混同はかなり確実と見られよう。

C）漢書に見られる被注字は「灌」（広韻：古玩切，水名，…… 又聚也，澆也…）であるが，師古は〝灌灌水流盛也〟と説く。「定声」に見られる〝渙流散也从水奐声詩溱洧方渙渙兮伝盛也韓詩作洹洹漢書地理志灌灌…〟[31]に拠り，師古音を広韻に見られる「渙」音と比較する。

---

31) 引用は「詁林」前引書，に拠る。

D） 漢書に見られる被注字は 「蛸」（広韻 ：狂兗切，爾雅曰，蛸蠉，…）であるが，師古は〝蜵蛸蠖濩言屋中之深広也〟と説く。鈕樹玉「説文解字校録」の〝蠉…按此字疑後人因釋蟲増故玉篇無広韻有而無義也当為蛸之別体…〟[32]に拠り，師古音を広韻に見られる「蠉」音と比較する。

E）本例は広韻で師古音と同音を示す仮借字 *詢（広韻：胡遘切）も求められる。cf. 資料，Ⅰ韻類・流摂（16）

◦広韻《匣》／師古《暁》

　漶：胡玩／音　奐（1051下20）

師古の方言で有声：無声の対立が顕著ではなかったとも考え得ることに就いて先に触れたが，上掲例も，亦，そのような推測を支持するものではないか。

(4) 《匣》母と《于》母は分かれていると見られる（cf. 資料）。《于》母は《匣》母が一定の音韻的条件の下で変化したもので，それ等が元，一類であったことは「玉篇」に見られる反切で，《于》母字が《匣》母字で示される例の多く見られることからも推測される。[33] 両母の混同は切韻，玄応にも認められるが，慧苑，慧琳では明確に分離されている。

3．1．5．総　　括

以上，顔師古漢書音義に見られる注音用字上特徴的なことのみを声類に限って見，その上で幾つかの私見を述べた。中国語音韻史の上で唐代は顕著な音声・音韻変化が起った重要な時期と一般に説かれながらも，資料上の制約等からその史的変遷の様相に不明確な点も少なくない。初唐の空白期間を埋める顔師古漢書音義に見られる声類（及び韻類）の特徴は今後の唐代音韻史の研究の上で参考となる素材を提供し

32) 引用は「詁林」前引書，に拠る。

33) cf. 趙元任，*Distinctive and Non-Distinctive Distinctions in Ancient Chinese*，HJAS 5-3(1941) p. 211

得るかと思う。尚，《日》母及び正歯音三等の音価が師古の方言で，或は，palatal のź-, tś- ではなく，cerebralのz-, tṣ- ではなかったかと推測し得る可能性も皆無ではないが，これは韻類で述べたのでここでは触れなかった。又，声調に関して本稿は扱わなかったが，それは師古音注例に見られる声調の混同が果して歴史的変化を示すものか，或は単なる個別的読音の相違を示すものかが未だ明らかにならないためであり，今後更に他の資料を補いつつ考究し，稿を改めて述べる機会を持ちたいと思う。

第4部　資　　料（補遺）

〔1〕音　注　表

I　類

通　摂

	東	董	送	屋
明				〔木〕 棨 〔沐〕 翣
定				〔獨〕 韣 〔瀆〕 黷 〔讀〕 黷 牘
来				〔鹿〕 谷
精	子公　鬷(1)		子弄　鬷(1)	
見 影			〔貢〕 𤣥(2) 贛 〔瓮〕 罋	

	冬		宋	沃
定				〔毒〕 纛
溪 影				〔酷〕 嚳 〔沃〕 鋈

(1) 「鬷」（126下）〔広〕作孔切（精董開一）又子紅切
(2) 「𤫊」，広韻「虹」に作る。

遇　摂

	模	姥	暮	
並		〔部〕 瓿(1)		
端 泥	〔奴〕 帑 駑		丁故 蠹	
来 清 従	〔盧〕 艫	千戸 粗(2) 才戸 觕		
見 疑	〔孤〕 瓠(3) 〔吾〕 鼯	〔古〕 罟	五故 午(4) 遻(5) 牾	

匣			〔悟〕 牾 〔互〕｛嫮｝	

(1) 「瓿」（1054下８）〔広〕蒲口切（並厚開一）又防無切
(2) 「粗」（717上11）「広」徂古切（従姥合一）又千胡切
(3) 「瓡」（126上）〔広〕之入切（章緝開三），*「瓠」〔広〕戸呉切（匣模合一）又胡誤切，cf. 師古注
(4) 「午」（506上７）〔広〕疑古切（疑姥合一）
(5) 「逻」，広韻「遻」に作る。

蟹　摂

	咍	海	代	
並		〔倍〕 傰(1)		
透 定 泥	〔胎〕 台 　　⿱𠂉桼(2) 〔台〕 能(3)		〔代〕 毒(4) 乃代 鼐 　　耐 　　耏 〔耐〕 能	
清 従		千在 釆	〔菜〕 釆 才代 𢦏	
昌		昌改 茝		

疑影	五來　敳	烏改　毒		

			泰開	
清			〔蔡〕　縩(5)	
見影			工艾　匄(6) 〔藹〕{濭}	

	灰	賄	隊	
並明	〔枚〕　玫(7)		歩内　孛	
端定	丁回　{嵂} 大回　魋			
来		郎賄　灅(8)		
従		〔辠〕　嶵(9)		
溪暁		口賄　魁	呼内　頮	

(1)　「傰」，広韻「蓚」に作る。

(2)　「𤎩」（393上19, 531上17, 550下7, 1077下18）〔広〕落哀切（来咍開一）又里之切，　*「邰」〔広〕土來切（透咍開一），cf．師古注

(3)　「能」（1244上13）〔広〕奴来切（泥咍開一）又奴登，奴等，奴代三切，*「台」〔広〕土來切（透咍開一）又與之切，cf．師古注（285下14）

(4)　「毒」（297下5, 424上19, 705上7）〔広〕徒沃切（定沃合一），　*「瑇」〔広〕徒耐切（定代開一），cf．集韻

(5)　「縩」（1197下15），広韻「縩」に作る。〔広〕七曷切（清曷開一）

(6)　「匄」，広韻「匃」に作る。

(7)　「玫」，広韻「玟」に作る。

(8)　「灅」，広韻「灄」に作る。

(9)　「嶧」，広韻「嵂」に作る。

臻　摂

	痕	很	恨	
溪		〔懇〕　豤		

	魂	混	慁	没
幫	〔奔〕　犇			
定	大門　屯			
心	〔孫〕　蓀			
溪		苦本　壺(1)		

(1)　「壺」（1285下14）〔広〕戸呉切（匣模合一）

山　　摂

	寒	旱	翰	曷
滂 並	普安　番(1) 步安　番(2)			步葛　發(3)
端 定 泥	〔丹〕　單 徒丹　鼉(4)		 乃旦　愚(5)	〔怛〕　靼 丁葛　靼 　　妲
来				〔剌〕　糲
清	千安　殘(6)			
見 匣	〔干〕　乾			〔曷〕｛蝎｝

	桓	緩	換	末
幫 並 明	 〔盤〕　卞(8) 　　弁(10)	 〔伴〕　並(9)		〔撥〕　蹳(7) 〔秣〕　韈(11)

見 暁 匣	〔桓〕 豲	〔管〕 斡(12)		呼活 𧮫 豁

(1) 「番」（65上16, 72上5, 165下, 427上3）〔広〕普官切（滂桓合一）又孚袁, 附袁, 博禾, 補過四切
(2) 「番」（865上13）〔広〕cf. (1)
(3) 「癹」（711上12）〔広〕蒲撥切（並末合一）
(4) 「鼉」（713上10）〔広〕徒河切（定歌開一）
(5) 「惡」（395下10), 広韻「憚」に作る。〔広〕徒案切（定翰開一）
(6) 「殗」, 広韻「飡」に作る。
(7) 「蹳」, (553上16), 広韻「蹬」に作る。〔広〕普活切（滂末合一）
(8) 「卞」（743下1）〔広〕皮変切（並線開三）, *「般」〔広〕薄官切（並桓合一）又北潘, 布還二切, cf.集韻
(9) 「並」（71上6, 406上3, 1146下3）〔広〕蒲迥切（並迥合四）
(10) 「弁」（962下16）〔広〕皮変切（並線開三）, *「般」〔広〕cf. (8), cf. 集韻
(11) 「衊」（598下19）〔広〕莫結切（明屑開四）
(12) 「斡」（601上15, 602上7）〔広〕烏括切（影末合一）

效　摂

	豪	皓	号	
端 定	徒高(2)鞉	丁老 鳲(1)	徒到 纛	
来			来到 勞 盧到 勞 力到 勞 郎到 勞	

精 従 心	先勞　梗	〔早〕　蚤 在早　皁	在到　鑿(3)	
見 溪 疑 暁 匣	〔敖〕　⿰頁⿰日日 　　囂 　　嗸 五高　⿰頁⿰日日 火高　薅	工早　稾 公老　稾 工老　稾 口老　稾 〔浩〕　澔(4)		

(1)　「鴎」，広韻「嶴」に作る。
(2)　下字を百衲本は「馬」に作るが，今，補注本に従い，之を「高」に改む。
(3)　「鑿」（510下13）〔広〕則落切（精鐸開一）又昨木，在各二切
(4)　「澔」，広韻「浩」に作る。

果　　摂

	歌	哿	箇	
滂 並	浦河　皤(1) 蒲河　畨(2) 蒲何　畨(3)			
定	徒何　鼉 徒河　鼉			

	大河　鼉			

	戈	果	過	
並 明	〔婆〕　𦃃(4)	〔麼〕　麿(5)		
透		他果　妥		
来	來戈　蠡 　　蠃 　　蠃(6)	郎果　蠃 　　蠃 来果　蠃		
清 従		千坐　𡿧(7)	千臥　挫(8) 　　莝 才臥　坐 財臥　坐 材臥　坐	
昌		赤坐　𡿧(9)		
匣		下果　夥		

(1)　「皤」（1293上17）〔広〕博禾切（幫戈合一）又薄波切

(2)　「番」（1226上５）〔広〕博禾切（幫戈合一）又補過，普官，孚袁，附袁四切

(3)　「番」（24下４，31下２，111下１，455下７，461上14，486上９，490下18）〔広〕cf.（2）

(4)　「𦃃」（952上16）〔広〕附袁切（並元合三）

(5) 「麿」（1279上９）〔広〕莫婆切（明戈合一）　*「麼」〔広〕亡果切（明果合一）cf. 師古注
(6) 「贏」（687下８）〔広〕郎果切（来果合一）
(7) 「砦」（555上20）〔広〕作可切（精果合一）又千可，所加二切
(8) 「挫」（1270下14）〔広〕則臥切（精過合一），　*「剉」〔広〕麤臥切（清過合一）cf. 師古注
(9) 「砦」（545上１）〔広〕cf. (7)

宕　摂

	唐開	蕩開	宕開	鐸開
並	薄郎　旁	歩朗　並(1)	歩浪　並(2) 旁(4)	〔薄〕　魄(3)
端			丁浪　當 甞	
透		他莽　帑		丁(5)各　橐 土各　跅(6) 〔拓〕　橐 〔託〕　橐 籜
泥		乃朗　曩		
来	〔郎〕　羹(7)			來各　楽 〔洛〕　楽
心	先郎　喪			先各　索 思各　索

見				〔各〕{⿰阝各}
疑				五各 咢
				遻
暁				火各 蠚
				呼各 蠚
				〔壑〕 蠚
匣	胡剛 {⿰目行}			胡各 貉
影				〔惡〕 堊

	唐合	蕩合	宕合	鐸合
匣	〔皇〕(8)⿱罒土			〔獲〕 畫
				〔鑊〕 穫
影	烏黄 ⿰氵⿱土土 (9)			

(1) 「並」（844下19）〔広〕蒲迥切（並迥合四）

(2) 「並」（161下3，274上15，275上1・3，287上5，426上19，749下5，750下1，849上4，885上9，992上4，1001上2，1044上1）〔広〕cf. (1)，*「傍」，*「徬」〔広〕蒲浪切（並宕開一），cf. 師古注（65下18），定声

(3) 「魄」（562上4）〔広〕普伯切（滂陌開二）又他各切

(4) 「旁」（265上16，269上10，426下17，843上19，843下5，928下10，1035上11，1042下10，1124下17，1126下4，1127上2）〔広〕歩光切（並唐開一）

(5) 百衲本は上字を「汀」に作る。之に従えば，本字は透母欄に移さるべき。

(6) 「跅」，広韻「蹢」に作る。

(7) 「羹」（396上20）〔広〕古行切（見庚開二）

(8) 百衲本は「翼」に作るが，今，補注本に従い之を改む。

(9) 「⿰氵⿱土土」，広韻「汪」に作る。

流　摂

	侯	厚	候	
並 明	莫侯　鞪(2)		歩候　捂(1)	
定 泥	〔投〕　牏	乃苟　穀(3)		
見 溪 影	工侯　韝 一侯　甌	 一后　毆	工豆　鷇(4) 　　彀 　　冓 〔溝〕　冓 〔遘〕　彀 〔彀〕　穀 口豆　鷇	

(1)　「捂」（629下20），広韻「掊」に作る。〔広〕薄侯切（並侯開一）又薄交，方垢，縛謀三切。但し，補注本は「抔」に作る。〔広〕蒲候切，又芳杯切

(2)　「鞪」（928下14）〔広〕莫浮切（明尤開三）

(3)　「穀」（1275上6）〔広〕古禄切（見屋開一），*「彀」〔広〕乃后切（泥厚開一），cf. 定声

(4)　「鷇」（350上20）〔広〕苦候切（溪候開一）

曾　摂

	登開	等開	嶝開	徳開
滂 並		普等 {倗}		蒲北　樸 焰(1)
透				吐得　貣
精	〔増〕　矰 〔曾〕　矰			
見			工鄧　鱊(2)	

(1)　「焰」（1090上13），広韻「熢」に作る。〔広〕符逼切（並職開三）
(2)　「鱊」，広韻「鯁」に作る。

咸　摂

	覃	感	勘	合
透 定		徒感　黮		它合　沓(1) 〔踏〕　鞜
心				先合　靸
見		〔感〕　鰔(2)		〔紺〕　贛

暁	呼含　谽(3)	胡感　頷		

	談	敢	闞	盍
透				吐盍　闟(4)
				〔榻〕　鞜(5)
泥	乃甘　聃(6)			
来		〔覽〕　擥		

(1)　「沓」（1198上17）〔広〕徒合切（定合開一）
(2)　「鰔」，広韻「鰔」に作る。
(3)　「谽」（719上14）〔広〕許咸切（暁咸開二）
(4)　「闟」（601上10）〔広〕徒盍切（定盍開一）
(5)　「鞜」（713下２）〔広〕古沓切（見合開一）又古洽切
(6)　「聃」（181下），広韻「聃」に作る。〔広〕他酣切（透談開一）。但し，王一，王二には他甘反又那含反と有る。

II　類

江　摂

	江	講	絳	覚
並明	〔尨〕　庬			〔瓝〕　暑
知徹				竹角　椓(1) 敕角　卓(2)
生				〔朔〕｛棵｝
匣	胡雙　｛瓨｝	〔項〕　缿		胡角　翯 〔学〕　翯

(1)　「椓」，広韻「掾」に作る。
(2)　「卓」（18 2 下）〔広〕竹角切（知覚合二）

蟹　摂

	皆開	駭開	怪開	
崇	仕皆　豺			
見匣			〔届〕｛朡｝ 下戒　䪥 〔械〕　䪥	

	皆合	駭合	怪合	
溪疑			苦怪　蒯 五怪　聵 蒯(1)	

(1)　「蒯」（187上）〔広〕苦怪切（溪怪合二）

山　摂

	刪開	潸開	諫開	鎋開
娘		女版　赧(1)		

	山開	産開	襉開	黠開
幫明	彼閑　豳(2)	莫限　矕(3)		

(1)　「赧」（115上20）〔広〕奴板切（泥潸開二）

(2)　「豳」（710下9）〔広〕府巾切（幫真開三），*「斒」〔広〕方閑切（幫山開二）又布還切，cf. 集韻

(3)　「矕」（1284上10）〔広〕武板切（明潸合二）

效　摂

	肴	巧	效	
並 明	蒲交　庖 〔茅〕　犛			
生	所交　髾 山交　{前}			
見 疑 暁	〔交〕　茭 呼交　髐(1) 　　虓 火交　虓		工効　覺 功効　覺 工孝　覺 五孝　樂 五教　樂	

(1)　「髐」，広韻「髇」に作る。

假　摂

	麻開	馬開	禡開	
明			莫暇　禡	
澄	丈加　塗			

莊	側加　柤			
見	〔家〕　豭	工下　叚		
		工雅　夏		
		攻雅　夏		
		〔假〕　夏		
		〔叚〕　夏		
曉	呼加　岈		呼駕　罅	
匣		胡雅　夏	胡稼　下	
			胡嫁　下	
			胡駕　下	
			胡亞　下	
影	一加　烏(1)			
	烏加　亞(2)			

	麻合	馬合	禡合	
匣	下媧　畫(3)			

(1)—「烏」（1159下12）〔広〕哀都切（影模合一）
(2)　「亞」（801上２）〔広〕衣嫁切（影禡開二）
(3)　「畫」（63上２）〔広〕戸佳切（匣佳合二）又烏媧切

梗　　摂

	庚開	梗開	映開	陌開

明	〔盲〕　亡蟲			莫客　貉 莫百　貉 莫伯　貉
徹 澄	丑庚　惾(1) 　　掌(2) 丈庚　掌(3) 　　{撐}			
生				山客　索
見 曉	工衡　更 公衡　更 功衡　更 工行　更 〔庚〕　更	〔鞕〕　{統}		〔格〕　{洛} 〔赫〕　奭(4)

	耕開	耿開	諍開	麥開
幇 滂 明	普萌　{駍} 普耕　{駍}	莫幸　黽		布麥　擘 普革　{鈲}
見				〔隔〕　丐

匣影	於耕　罌 罃 嫈			胡隔　翮 〔厄〕　扼(5)

	耕合	耿合	諍合	麦合
見匣	〔宏〕　谹(6)			居獲　馘 〔獲〕(7)畫

(1)　「憧」，広韻「瞠」に作る。

(2)　「牚」（1142上18）〔広〕他孟切（透映開二），*「橕」〔広〕丑庚切（徹庚開二），cf. 集韻

(3)　「牚」（1142上18）〔広〕cf. (2)

(4)　「奭」（651下７）〔広〕施隻切（書昔開三），*「赫」〔広〕呼格切（暁陌開二），cf. 定声

(5)　「扼」，広韻「扼」に作る。

(6)　「谹」，広韻「𠫓」に作る。

(7)　「獲」，百衲本は「護」に作るが，今，補注本に従い之を改む。

ⅢA　類

止　摂

	支開	紙開	寘開	
幇甲 並甲 明乙	〔脾〕　卑(1) 〔麋〕　麊	必爾　鞞		
来	〔離〕　氂(2) 麗	力爾　麗(3) 力尔　峛		
徹 澄	〔螭〕　魑 直移　謻(4)	〔豸〕　虒(5)		
精 従 心	〔斯〕　虒	子爾　訾 〔紫〕　呰	才賜　胔 〔漬〕　胔	
初 生	楚宜　差 所宜　{攦}	初蟻　柴(6) 山紙　屣		
船 書 羊	弋支　暆 弋示　祂	食尔　舐 式爾　痑(7)		

	〔移〕 暆 謻			
疑乙 曉乙	〔儀〕 鸃(8) 〔犧〕 獻(9)			

	支合	紙合	寘合	
澄			丈瑞 番(10) 直恚 番(11) 丈瑞 缶(12)	
章 常	〔番〕 缶	之蘂 棰(13)		
曉甲 影乙 于	火規 隳 於危 倭	迂偽 委(14)	於偽 餧 于偽 為	

	脂開	旨開	至開	
幇甲 乙 滂甲 乙	〔丕〕 鈺	彼美 嚭(16) 匹履 {疵}	必二 蔽(15)	〔鼻〕 卑(17)

並甲 乙 明乙		皮鄙　否	〔鼻〕　卑(17) 〔媚〕　魅	
来	力私　𢀖(18)			
知 澄	丈夷　迟(20)	〔雉〕　滍	竹二　疐 疌(19)	
精 清 從	子私　訾(21) 〔咨〕　訾(23) 粢 才私　齊(24)	〔姊〕　朿(22)	〔次〕　佽	
章 羊 從	〔祗〕　支(25) 〔夷〕　羨 〔痍〕　夷		弋二　肄(26) 亦二　肄	
見乙 影甲	〔伊〕　黟 黝	〔几〕　麐 旨	〔冀〕　幾(27) 穊	

	脂合	旨合	至合	
来		力水　灅(28)		

澄	直追　魋(29)			
精 心			子遂　檇 〔酔〕　檇 先遂　粋 息遂　崇	
生			所類　帥	
見乙 群乙	鉅亀　夔	〔軌〕　氿		

	之	止	志	
来	力之　釐 　　氂(30) 〔貍〕　犛			
徹 澄	丑之　苦(31) 　　漦(32)	〔峙〕　滍(33) 丈紀　偫(34)		
精 従	〔孜〕　孳 〔茲〕　孜 〔慈〕　鷀(35)			

十 心 邪	茲	〔枲〕{思}	〔飤〕　食(36)	
荘	側其　笫		側吏　事 　　蔵	
書 日 羊	 〔而〕　耏 〔怡〕　台	 〔以〕　目	式志　幟 戎餌　幟	
見乙 暁乙	〔基〕　其 〔箕〕　其 許其　{希}(38) 〔僖〕　釐(40)	居起　幾(37)	 許記　喜(39)	

(1)　「卑」（185下）〔広〕府移切（幇支開四）
(2)　「麓」（1056上13）〔広〕里之切（来之開三）又莫袍切
(3)　「麗」（719下20，720 上６）〔広〕呂支切（来支開三）又郎計切
(4)　「諺」（115上18）〔広〕弋支切（羊支開四），*「篾」〔広〕直離切（澄支開三）又音移，cf. 補注
(5)　「屍」（1037下10）〔広〕息移切（心支開四）
(6)　「柴」（1037下10）〔広〕士佳切（崇佳開二）
(7)　「疹」（720下12）〔広〕丁佐切（端箇開一）又他干，託何二切
(8)　「鸃」，広韻「鸃」に作る。
(9)　「獻」（1260上20）〔広〕許建切（暁願開三）又素何切，*「犧」〔広〕許羈切（暁支開三），cf. 広韻
(10)　「畨」，広韻「番」に作る。（399上４）〔広〕是偽切（禅支合三）
(11)　「番」cf.（10）（489上15）〔広〕cf.（10）
(12)　「缶」（31上２）〔広〕方久切（幇有開三），*「番」cf.(10)，cf.師古注
(13)　「棰」，広韻「捶」に作る。

(14) 「委」（886上３）〔広〕於為切（影支合三）又於詭切
(15) 「蔽」（874下１）〔広〕必袂切（幇祭開四）
(16) 「嚭」（423下４）〔広〕匹鄙切（滂旨合三）
(17) 「卑」（644下15）〔広〕cf. (1)
(18) 「𦬊」（1047下17）〔広〕里之切（来之開三）
(19) 「疌」（132上）〔広〕疾葉切（従葉開四）
(20) 「迟」，広韻「遲」に作る。
(21) 「訾」（647上10）〔広〕即移切（精支開四）又将此切
(22) 「朿」（388上２）〔広〕阻史切（莊止開二）又即里切
(23) 「訾」（299下16）〔広〕cf. (21)
(24) 「齊」（609下４）〔広〕徂奚切（従斉開四）
(25) 「支」（272下２）〔広〕章移切（章支開三）
(26) 「肄」，百衲本は「隷」に作るが，今，補注本に従い之を改む。
(27) 「幾」（542上13, 1033上６，1232上20，1255下９）〔広〕居依切（見微開三）又居稀，渠希，其既三切，*「奠」〔広〕几利切（見至開三），cf. 師古注（503上11, 608下１, 他）
(28) 「灅」(410上12)，広韻「灅」に作る。〔広〕落猥切（来賄合一）
(29) 「魋」（1090下８）〔広〕杜回切（定灰合一），*「椎」〔広〕直追切（澄脂合三），cf. 師古注
(30) 「氂」(69上４，345上11，728下６，1248上14）〔広〕莫袍切（明豪開一），*「斄」〔広〕里之切（来之開三），cf. 師古注（1248上14）
(31) 「苦」（９下20）〔広〕康杜切（溪姥合一）又苦故切，*「笞」〔広〕丑之切（徹之開三），cf. 師古注
(32) 「漦」（367下10，1282上14）〔広〕俟甾切（崇之開二）
(33) 「滍」（397下７）〔広〕直几切（澄旨開三）
(34) 「偫」，広韻「待」に作る。
(35) 「鷬」，広韻「鷲」に作る。
(36) 「食」（574上15）〔広〕乗力切（船職開三）又羊吏切，*「飤」〔広〕祥吏切（邪志開四），cf. 集韻
(37) 「幾」（735上15，866下７）〔広〕居稀切（見尾開三）又居依切
(38) 「剎」，補注本は「郗」に作る。〔広〕丑飢切（徹脂開三）
(39) 「喜」（723下20）〔広〕虚里切（暁上開三），*「憙」許記切（暁志開三），cf. 段注
(40) 「釐」（46下８）〔広〕里之切（来之開三），*「禧」〔広〕許其切（暁之開三），cf. 師古注

蟹　摂

			祭開	
幇甲			〔蔽〕　鄨	
溪乙			丘例　𧼈(1) 〔蓺〕　埶 於例　瘞	

			祭合	
邪			(2)似歳　彗	
日			〔芮〕　蚋(3)	
見乙			居衛　劌	

(1)　「𧼈」（719下 8）〔広〕丘謁切（溪薛開三）
(2)　「似」，百衲本（1050上14）は「以」に作るが，今，補注本に従い之を改む。
(3)　「蚋」，広韻「蜹」に作る。

臻　摂

	真開臻	軫開	震開	質開櫛
滂甲	人｛驙｝			

明甲 乙	〔旻〕 嶍(1)	莫忍 黽		
徹				丑乙 {呋}
崇	仕巾 {掞}			
章 常 羊	只人 振	〔軫〕 畛 訴(2) 上忍 蠢(3)		尹一 失(4)
群乙 疑乙	巨巾 矜 其巾 矜 〔銀〕 圜(5)			

	真合諄	軫合準	震合稕	質合術
清 心 邪	千旬 俊(6) 〔詢〕{揨} 〔旬〕{揨}			
船 書 常 羊	〔純〕 屯(8)		〔舜〕 鬊	〔述〕{鉥} (7) 以出 矞

(1)　「嶓」，広韻「岷」に作る。
(2)　「訴」，広韻「診」に作る。
(3)　「蠶」，　広韻「蜃」に作る。
(4)　「失」（787下12）〔広〕式質切（書質開三），*「佚」〔広〕夷質切(羊質開四)，cf. 師古注
(5)　「圜」（408下１）〔広〕王権切（于仙合三）又戸関切，*「圁」〔広〕語巾切（疑真開三），cf. 師古注（408下11）
(6)　「後」，広韻「逡」に作る。
(7)　王一，王二に有る。食聿反（船術合三）
(8)　「屯」（355下10，394下13）〔広〕徒渾切（定魂合一）又陟綸切

山　摂

	仙開	獮開	線開	薛開
幇甲 滂甲 明甲		莫善　黽 莫踐　黽 〔湎〕　黽 〔緬〕　黽		〔鼈〕　鼈 不列　鼈 匹列　撇(1)
来	〔連〕{嫥}			
心				先列　鹵
船 常	〔蟬〕　單	〔善〕　單 鱔(3)		食列　{撥}(2)

羊		〔演〕 夤(4)	弋戰 羨 延(5) 弋扇 羨 弋繕 羨	
見甲 群甲 疑甲	鉅連 靬 其連 犍 〔虔〕 靬 犍	俱免 卷(6)		牛列 臬(7) 五列 甈(8)

	仙合	獮合	線合	薛合
来	力全 攣			
精 従	子緣 {睃}	字兖 雋		
章 常 日 羊	人椽 壖(9) 人緣 壖(10) 而緣 壖(12) 〔緣〕 𢧵(13)	之兖 剸	上絹 叀	之悅 {棳} 而悅 藝 人悅 蚋(11)

見乙			〔眷〕　拳(14)	
			拳	
溪甲	丘專　卷(15)			
乙	丘權　拳			
	卷(16)			
	去權　卷(17)			
	拳(18)			
群甲	巨專　卷			
	其專　卷			
	其圓　卷			
	鉅圓　卷			
乙	〔拳〕　卷			
	〔權〕　拳			
影甲		一兖｛蜵｝		

(1)　「撇」（708上14，1038下15）〔広〕普蔑切（滂屑開四）
(2)　「撳」，百衲本は「椌」に作るが，今，補注本に従い之を改む。
(3)　「鱔」，広韻・補注本は「鱓」に作る。
(4)　「夤」（182下）〔広〕翼真切（羊真開四）
(5)　「延」（709下13，1265下９）〔広〕于線切（于線開三）又以然切。cf．校勘記：于線切，唐韻作予線切（羊線開四），是也。
(6)　「卷」（502 上14）〔広〕求晩切（群阮合三）又居倦，居轉，巨員三切
(7)　「臬」（620上17）〔広〕五結切（疑屑開四）
(8)　「甈」（601上16）〔広〕五計切（疑霽開四）又去例切
(9)(10)(12)　「壖」，広韻「堧」に作る。
(11)　「蚋」，広韻「蜹」に作る。
(13)　「蔵」，広韻「鳶」に作る。
(14)　「拳」（677上13）〔広〕巨員切（群仙合三），　*「絭」〔広〕広倦切(見線合三）又居願，居玉，区倦三切，cf．師古注
(15)　「卷」（711上11）〔広〕居倦切（見線合三）又居轉，求晩二切
(16)　「卷」（544上８）〔広〕cf．(15)
(17)　「卷」（333上17，395下３，416下６，932下20）〔広〕cf．(15)
(18)　「拳」（677上13）〔広〕cf．(14)

效　摂

	宵	小	笑	
幇甲	必遥　猋			
乙	彼驕　麃(1)			
滂甲	匹遥　縹(2)		匹妙　縹(3)	
並甲	頻遙　瓢			
来			力召　尞	
従	在消　嫶(4)			
昌		昌少　糗(5)		
書			式邵　少	
常			時召　劭	
羊	羊召　搖			
	弋招　搖			
	〔搖〕　繇			
	〔傜〕　繇			
見乙	〔驕〕　喬			
渓甲	丘遙　趫			
群乙	〔橋〕　喬			
	{墧}			
暁甲	許昭　髤(6)			
乙	許驕　[illegible]			
影甲	一遙　[illegible](7)		一笑　幼(8)	
乙		一小　幼(9)		

(1) 「麃」（506下11）〔広〕滂表切（滂小開三）又薄交切，*「灥」〔広〕甫嬌切（幇宵開三），cf. 補注
(2) 「縹」（601下２）〔広〕敷沼切（滂小開四）
(3) 「縹」（1186下３）〔広〕cf.(2)
(4) 「嫶」，広韻「憔」に作る。
(5) 「楱」（793下16）〔広〕去久切（渓有開三）
(6) 「髟」（1198上15）〔広〕許尤切（暁尤開三）
(7) 「𡥈」，広韻「要」に作る。
(8) 「幼」（666上７，1047下７）〔広〕伊謬切（影幼開四），*「要」〔広〕於笑切（影笑開四）又於霄切，cf. 師古注（94上８）
(9) 「幼」（1186上20）〔広〕cf.(8)，*「要」？，cf.(8)

假　摂

	麻開	馬開	禡開	
精	〔嗟〕　罝			
羊	弋奢　斜	弋者　冶		

梗　摂

	清開	静開	勁開	昔開
徹	丑成　酲 檉			
従		〔靜〕　靖		
生		所領　省(1) 眚(2)		

章	之盈　正 之盛　正 之成　正 〔征〕　正			之石　跢(3)
書				式亦　奭 試亦　奭
羊	〔盈〕　贏 　　嬴 弋成　贏	弋整　椑		弋石　躲 〔懌〕　釋(4)
影甲			一政　罌(5)	

	清合	静合	勁合	昔合
羊	〔營〕　塋			
群甲	〔煢〕　惸			

	庚開	梗開	映開	陌開
見乙 群乙	〔京〕　麖	〔境〕　竟(6)		〔戟〕｛躆｝ 〔劇〕　谼(7) 　　𠜱(8)

	庚合	梗合	映合	陌合
見乙于	〔榮〕 瑩	居永{㚇}	〔詠〕 營	

(1) 「省」（43下16, 53上7・14, 672上3, 811下20, 961上15, 991上3）〔広〕所景切（生梗開二）又息井切
(2) 「眚」（1205上4）〔広〕所景切（生梗開二）
(3) 「跢」，広韻「蹠」に作る。
(4) 「釋」（936上10）〔広〕施隻切（書昔開三），*「繹」〔広〕羊益切（羊昔開三）cf. 補注
(5) 「罌」（480上19）〔広〕烏莖切（影耕開二）
(6) 「竟」（1253上3）〔広〕居慶切（見映開三），*「境」〔広〕居影切（見梗開三）cf. 定声，師古注（1134上6）
(7) 「𥚃」（713上5）広韻「𥚃」に作る。〔広〕几劇切（見陌開三）
(8) 「𥚃」（705下16），広韻「𥚃」に作る。〔広〕cf. (7)

流　摂

	幽開	黝開	幼開	
暁甲			火幼 {螑}	

深　摂

	侵	寑	沁	緝
幇甲		彼甚 稟		

来	力禁　臨			〔立〕　颯(1) 翊(2)
精				子入　漸
初 生	初林　參 楚林　參 所林　參 　　琴			
羊	〔遥〕　尢			弋入　翊(3)
見乙 溪乙 群乙	居禽　禁 〔欽〕　頷(4) 〔琴〕　黔			

(1)　「颯」（720上11，1141上18）〔広〕蘇合切（心合開一）
(2)　「翊」（231下６）〔広〕與職切（羊職開四）
(3)　「翊」（231下６）〔広〕cf.(2)
(4)　「頷」（1050下18）〔広〕胡男切（匣覃開一）又胡感切，*「頷」〔広〕去金切（溪侵開三）又欽錦，五感二切，cf. 補注

咸　　摂

	塩	琰	豔	葉
来			力贍　斂(1)	力渉　鬣
従	〔潜〕　鬻			

心	先廉　彡 先冉　彡 〔纖〕　襳			
生	所廉　彡(2)			
章 日	之漸　占 人占　髯			之涉　讋 　　執(3) 章涉　讋
見乙 群乙 影甲 于	紀炎　黚(4) 其炎　黔			 一葉　猒(5) 一涉　猒(6) 于涉　縲(7)

(1)　「斂」，百衲本は「殮」に作るが，今，補注本に従い之を改む。
(2)　「彡」（27下18，958上５）〔広〕所銜切（生銜開二）又息廉切
(3)　「執」（819下13）〔広〕之入切（章緝開三），*「慴」〔広〕之涉切（章葉開三）又之入，奴協，秦入三切，cf. 師古注
(4)　「黚」（405上13）〔広〕巨淹切（群塩開四）又巨金切
(5)　「猒」（1271下10）〔広〕一塩切（影塩開四）又於豔切，*「厭」〔広〕於葉切（影葉開四）又於豔，於琰二切，cf. 集韻
(6)　「猒」（10上３）〔広〕cf.(5)
(7)　「縲」（127上），広韻「縗」に作る。〔広〕七接切（清葉開四）。上字の「于」は「千」の誤写か。

ⅢB　類

通　摂

	東	董	送	屋
来				力竹　勠
知 澄 娘			竹仲　中	 〔軸〕　舳 女六　朒(1)
章 昌 常 羊				之六　斶 昌六　柷 〔孰〕　塾 弋六　斶 〔育〕　斶
見 群 影				居六　鞠 鞫 鉅六　鞠 巨六　鞠 {鞫} 〔郁〕　奥(2)

	鍾	腫	用	燭
並			扶用　奉(3)	
知 澄	丈庸　重 直龍　重	直勇　重	竹用　重(4) 直用　重	
羊		〔踊〕　甬		
見 疑	居容　共 〔龔〕　共 〔恭〕　共 〔顒〕　禺(6)		居用　共(5)	居玉　臼

(1)　「腕」，広韻「肭」に作る。

(2)　「奥」（1126下18，1128下11）〔広〕烏到切（影号開一）

(3)　「奉」（37上9，64上16，83下15，92上20，103下19，426下11，523上5，527下8，573下10，634下1，727上18，735上19，800上1，879下1，939上17，996下1，1221上1）〔広〕扶隴切（並腫合三），*「俸」扶用切（並用合三），cf．集韻

(4)　「重」（1115上9）〔広〕直容切（澄鍾合三）又直隴，柱用二切，*「潼」〔広〕竹用切（知用合三）又都貢二切，cf．師古注

(5)　「共」（95下12，158下15，264上18，280上19，291上5，877下1，904上2，945下9，946上1，991上4，1075上6，1187下20，1197上10，1197下7，1201下14，1213下14，1216上1，1220下1，1228上10）〔広〕九容切（見鍾合三）又渠用切，*「供」〔広〕居用切（見用合三）又居容切，cf．師古注(280上19，291上5，など)

(6)　「禺」（708下13）〔広〕遇俱切（疑虞合三）又牛具切，*「鰅」〔広〕魚容切（疑鍾合三）又遇俱切，cf．定声

止　　摂

	微開	尾開	未開	
見		居豈　幾	〔既〕　旣	
渓			〔氣〕　乞	
群	巨依　幾			
	距衣　幾			
	鉅衣　幾			
	鉅依　幾			
暁		許豈　豨	許既　喜(1)	

	微合	尾合	未合	
幇	〔誹〕　非			
滂	〔霏〕　裶			
明		武匪　齊		
暁	〔暉〕　翬	許偉　虺	許貴　𡸁	
	〔揮〕　翬		〔諱〕　𡸁	

(1)　「喜」（1063上７）〔広〕香忌切（暁志開三）又虚里切

遇　摂

	魚	語	御	
徹 娘	丑於　樗(1) 丑余　樗(2) 女居　挐			
章 昌 羊	(3) 弋於　與 與 譽 〔豫〕　與 與 〔餘〕　與	昌汝　處	之庶　翥 弋庶　與 〔預〕　與	
見 渓 疑 暁	〔袪〕　抾(5) 〔虚〕　虧	〔擧〕　去(4) 丘呂　去	〔御〕　{衘}	

	虞	麌	遇	
幇 滂 並	〔扶〕　夫	〔甫〕　父	妨付　踣(6)	

知 徹	〔誅〕 邾 〔株〕 邾 丑于 貙			
従			才喩 聚 材喩 聚	
章 常 日 羊	〔朱〕 邾(7) 〔殊〕 朱(8) 〔踰〕 {瞗}	〔主〕 麈	〔霍〕 雰 人喩 乳(9) 而樹 乳(10)	
見 渓 群 疑 暁 于	 〔區〕 毆 〔劬〕 瞿 〔衢〕 瞿 〔愚〕 禺 〔隅〕 禺 許于 煦(14)	居禹 {揭} 丘羽 齲 曲(11) 丘禹 曲(12) 其羽 寠(13) 〔禹〕 {偶}	居具 瞿 許句 煦(15) 況務 酌(16)	

(1)(2)「樗」，広韻「撙」に作る。
(3) 「弋」，百衲本は「戈」に作るが，今，補注本に従い之を改む。
(4) 「去」（1097上20）〔広〕羌擧切（渓語開三）又近倨切，*「弃」〔広〕居許切（見語開三）又羌擧切，cf．広韻

(5) 「抶」（1045上20）〔広〕去其切（渓之開三）又丘之，去劫二切
(6) 「踣」（239上12）〔広〕匹候切（滂候開一）又蒲北切，*「仆」〔広〕芳遇切（滂遇合三）又滂候，並徳，敷宥三切，cf. 集韻
(7) 「邾」（491上3）〔広〕陟輸切（知虞合三）
(8) 「朱」（266上17）〔広〕章倶切（章虞合三）
(9) 「乳」（244下2，679下12，1191上12）〔広〕而主切（日麌合三），*「孺」〔広〕而遇切（日遇合三）cf. 定声
(10) 「乳」（836下9，1199下13）〔広〕cf. (9)，*「孺」〔広〕cf. (9)
(11) 「曲」（531上9，549下18）〔広〕丘玉切（渓燭合三）
(12) 「曲」（544下12）〔広〕cf. (11)
(13) 「褽」，広韻「褽」に作る。
(14) 「煦」（666上8）〔広〕況羽切（暁麌合三），*「旴」〔広〕況于切（暁虞合三）又況羽切，cf. 集韻
(15) 「煦」（666上8）〔広〕cf. (14)，*「旬」？cf. (14)
(16) 「酌」，広韻「酗」に作る。

臻　　摂

	欣	隠	斤	迄
渓				〔乞〕　芑

	文	吻	問	物
滂 並	〔芬〕　衯 扶分　棼			〔佛〕　弗(1)
見 影 于	〔軍〕　皸 〔云〕　煩	於粉　韗	 〔運〕　鄆	

(1) 「弗」（ 428上6 ）〔広〕分勿切（幫物合三），*「怫」〔広〕扶物切（並物合三）又扶涕切，cf. 集韻

山　　摂

	元開	阮開	願開	月開
見	居言　軒	居偃　建(1)		居謁　訐
	鞬			
群	其言　犍(2)			
	鉅言　犍(3)			
	軒(4)			
疑	〔言〕　甗	牛偃　甗(5)		
影		〔偃〕｛隁｝		

	元合	阮合	願合	月合
滂	敷元　幡			
並	扶元　番	扶晚　飯		〔伐〕　筏
	〔煩〕　蠜			
明	母元(6)　鬗(7)			武伐　韈
				韈
疑	〔原〕　螈(8)			

(1) 「建」（26下1）〔広〕居万切（見願開三）
(2) 「犍」（96下19）〔広〕居言切（見元開三）又渠焉切

(3) 「犍」（71上9，1160上4）〔広〕cf.(2)
(4) 「軒」（1162上7）〔広〕居言切（見元開三）又古閑，苦寒，苦旰三切
(5) 「齞」（158上5）〔広〕魚塞切（疑獮開三）又語軒，魚変二切
(6) 「母」，補注本は「武」に作る。
(7) 「鬍」（232上7）〔広〕母官切（明桓合一）又無販切
(8) 「螈」，広韻「蚖」に作る。

宕　摂

	陽開	養開	漾開	藥開
来			力張　量	
徹				丑若　臒 丑略　臒
精 清	千羊　将(1)		子亮　将	
昌 書 常 羊		時掌　上	〔餉〕　向 弋向　養 弋亮　養	〔綽〕　龠 〔籥〕　瀹
見 暁 影	〔薑〕　韁	居丈　襁 許兩　嚮 向(2) 〔響〕　嚮 於兩　鞅	於亮　鞅(3)	

	陽合	養合	漾合	薬合
並 明	〔房〕 坊 〔亡〕 望			
知		竹兩 長		
見 于			 于放 {注}	〔鑊〕 矍 玃

(1) 「将」（ 971上5 ）〔広〕即良切（精陽開四）又子亮切．なお，上字「千」は「子」の誤写か。
(2) 「向」（ 325下11， 331下5 ）〔広〕式亮切（書漾開三）又許亮切，*「嚮」〔広〕許兩切（暁養開三），cf．師古注（ 185下， 325下11）
(3) 「鞅」（32下13）〔広〕於兩切（影養開四），*「怏」〔広〕於亮切（影漾開四），cf．定声

流　摂

	尤	有	宥	
明	〔牟〕 麰 鍪			
来	〔劉〕 {劉}			
澄			丈救 緎	

精 從	子由 [illegible](1) 材由 酋			
莊			側救 甃	
昌 書 日 羊	昌牛 [illegible] 昌由 [illegible] 〔攸〕 卣	羊九 羑 卣 〔誘〕 莠	失救 首 式救 首 汝救 糅(2) 弋救 褱(3) 弋授 褎 貁	
渓 群 曉	〔丘〕 龜(4) 〔仇〕 厹 許求 髹	丘九 糗		

(1) 「[illegible]」，広韻「揫」に作る。
(2) 「糅」（ 506上４）〔広〕女救切（娘宥開三）
(3) 「褱」，広韻「褎」に作る。
(4) 「龜」（1159上18）〔広〕居追切（見脂合三）又居求切

曽　摂

	蒸開	拯開	證開	職開
船			食證 乘 食孕 乘	

群 暁	鉅陵　兢(1)		許證　興	

(1)　「兢」（1038上4）〔広〕居陵切（見蒸開三）

咸　　摂

	厳	儼	釅	業
渓 疑 暁				〔怯〕　抾 　　胠 〔業〕　嶪(1) 〔脅〕　胠(2)

(1)　「嶪」，広韻「巉」に作る。
(2)　「胠」（140上）〔広〕近倨切（渓御開三）又去魚，去劫二切

IV　類

蟹　摂

	齊開	荠開	霽開	
並 明	歩迷　鼙 莫奚　臂			
端 透 定 泥	丁奚　鞮 　　羝	丁禮　氐(1) 〔悌〕　弟 乃禮　禰	 吐計　鬄(2) 他計　鬀(3) 徒計　髢 　　弟 大計　弟 〔弟〕　娣	
来	盧奚　彙蟲 來奚　彙蟲 落奚　彙蟲 〔黎〕　彙蟲 〔犁〕(4)｛荋｝			
精		子禮　｛洗｝		
渓		口禮　豬(5) 〔啓〕　棨(7)	口計　鍥(6) 　　挈(8)	

疑	五兮　兒		苦計　挈(9) 五計　睨 〔詣〕　羿	
匣 影	〔奚〕　鼷 烏奚　鷖			

	斉合	蒼合	霽合	
匣	〔携〕　嶲			

(1)　「氐」（226上1，262下15，752上14，765下3，1051上12，1080上6，1091下16，1102下9）〔広〕都奚切（端斉開四）又丁尼切，*「抵」〔広〕都禮切（端蒼開四），cf．師古注（262下15，1091下16）

(2)　「鬄」（764下6）〔広〕思積切（心昔開四），*「鬄」〔広〕他計切（透霽開四），cf．広韻

(3)　「鬄」（34下18）〔広〕他歴切（透錫開四）又施隻切，*「鬄」〔広〕cf．(2)，cf．説文

(4)　「犁」，広韻「犂」に作る。

(5)　「䭫」，広韻「䭫」に作る。

(6)　「鍥」（646下6）〔広〕苦結切（渓屑開四）又古屑切，*「栔」〔広〕苦計切（渓霽開四），cf．定声

(7)　「棨」，広韻「棨」に作る。

(8)　「挈」（733上7，1282上20）〔広〕苦結切（渓屑開四），*「栔」〔広〕cf．(6)，cf．定声

(9)　「挈」（428下15）〔広〕cf．(8)，*「栔」cf．(8)

山　　攝

	先開	銑開	霰開	屑開
滂 並			歩見　辨(2)	普結　撇(1)
定 泥			乃見　晛	〔耋〕　{蛓}
清 心			蘇見　先	千結　切
見 溪 疑 匣	古牽　揵(3) 〔堅〕　幵 苦堅　汧 口肩　汧 〔牽〕　汧 　　幵		苦見　幵(4) 口見　幵(5)	〔齧〕　𠯿 下結　絜

	先合	銑合	霰合	屑合
見 匣			〔縣〕　衒	〔決〕　{缺}

(1) 「撇」，広韻「擊」に作る。
(2) 「辨」（406下8）〔広〕符蹇切（並獮開三）又蒲莧切
(3) 「摷」（1044下3）〔広〕口莖切（渓耕開二），*「牽」〔広〕苦堅切（渓先開四）又苦甸切，cf．師古注
(4) 「幵」（408上3）〔広〕古賢切（見先開四）又音牽，*「岍」？〔広〕苦堅切（渓先開四），cf．段注
(5) 「幵」（707下17）〔広〕cf．(4)，*「岍」？cf．(4)

效　攝

	蕭	篠	嘯	
端 透 定 泥	〔貂〕　刁(1) 〔彫〕　刀 它堯　窕(2) 〔條〕　脩(3)	乃了　裊(4)		
来	〔遼〕　{嘹} 〔聊〕　料			
見 影	工聊　{喿} 一堯　幺	烏了　嫋(5)	工釣　噭	

(1) 「刁」，広韻「蛁」に作る。
(2) 「窕」（361下12）〔広〕徒了切（定篠開四），*「佻」〔広〕吐彫切（透蕭開四），cf．定声
(3) 「脩」（150上1，412下3）〔広〕息流切（心尤開四），*「條」〔広〕徒聊切（定蕭開四），cf．師古注（135下）
(4) 「裊」，広韻「褭」に作る。
(5) 「嫋」，百衲本は「㜷」に作るが，今，補注本に従い之を改む。

梗　摂

	青開	迥開	徑開	錫開
滂 並 明	歩丁　缾			普狄　{釽} 歩歴　擘(1) 〔覔〕　{爓}
端 定	徒丁　筳 〔廷〕　筳		〔定〕　廷	丁歴　的
来				〔歴〕　鬲 　　皪 〔礫〕　皪
心				先歴　皙 　　蜥
影			烏瞑　瑩	

	青合	迥合	徑合	錫合
見		公迥　烱(2)		

(1)　「擘」（474上10）〔広〕博厄切（幇麦開二）
(2)　「烱」，広韻「炯」に作る。

咸　　摂

	添	忝	栝	怗
見				〔頬〕　夾(1)
影		一點　黮(2)		

(1)　「夾」（335下13，437下９，859下４）〔広〕古洽切（見洽開二）
(2)　「黮」（581下７）〔広〕於琰切（影琰開四）

〔2〕 反切上字表

I 類

声母	上字 上字韻母	下字 声母	帰字 韻母	帰字 類	反切 延べ数
幇	布－ 模上	明	耕	入II	
滂	普－ 模上	端開	登	上	
		影開	寒	平	
		明	耕	平II	
		見開	耕	平II	
		見開	耕	入II	
		見開	先	入IV	
		定開	青	入IV	
	浦－ 模上	匣開	哈	上	
並	蒲－ 模平	幇	登	入	2
		匣開	歌	平	
		匣開	歌	平	
		見開	肴	平II	
	歩－ 模去	泥合	灰	去	
		影開	寒	平	
		見開	寒	入	
		来開	唐	上	
		来開	唐	去	2
		匣開	侯	去	
		明	斉	平IV	
		見開	先	去IV	
		端開	青	平IV	
		来開	青	入IV	
	薄－ 唐入	来開	唐	平	
明	莫－ 唐入	匣開	侯	平	
		匣開	山	上II	
		匣開	麻	下II	
		幇	庚	入II	
		幇	庚	入II	
		溪開	庚	入II	
		匣開	耕	上II	
		日	真	上III A	
		従開	仙	上III A	
		常開	仙	上III A	
		匣開	斉	平IV	
	母－ 侯上	匣開	元	平III B	
透	土－ 模合上	見	唐開入		
	吐－ 模合上	端	登開入		
		匣	談開入		

		見	斉開去Ⅳ
	他－歌開平	見	戈合上
		明	唐開上
		見	斉開去Ⅳ
	它－歌開平	明	唐開上
		匣	覃開入
		疑	蕭開平Ⅳ
定	徒－模合上	端	寒開平
		見	豪開平
		端	豪開去
		匣	歌開平
		見	覃開上
		見	斉開去Ⅳ 2
		端	青開平Ⅳ
	大－泰開去	匣	灰合平
		明	魂合平
		見	斉開去Ⅳ
泥	奴－模合平	定	咍開去
	乃－咍開平	定	咍開去 2
		端	寒開去
		来	唐開上
		見	侯開上
		見	談開平
		来	斉開上Ⅳ
		見	先開去Ⅳ
		来	蕭開上Ⅳ
来	盧－模合平	端	豪開去
		匣	斉開平Ⅳ
	来－咍開平	端	豪開去
		見	戈合平 3
		見	戈合上
		見	唐開入
		匣	斉開平Ⅳ
	郎－唐開平	暁	灰合上
		端	豪開去
		見	戈合上 2
	落－唐合入	匣	斉開平Ⅳ
従	才－咍開平	匣	模合上
		定	咍開去
		疑	戈合去
		心	支開去ⅢA
		羊	虞合去ⅢB
	材－咍開平	疑	戈合去
		羊	虞合去ⅢB
		羊	尤開平ⅢB
	財－咍開平	疑	戈合去

	在一 哈開上	精	豪開上
		端	豪開去
		心	宵開平III A
心	蘇一 模合平	見	先開去IV
見	工一 東開平	疑	泰開去
		来	豪開上
		精	豪開上
		匣	侯開平
		定	侯開去 2
		定	登開去
		暁	肴開去II
		匣	肴開去II
		疑	麻開上II
		匣	麻開上II
		匣	庚開平II
		匣	庚開平II
		来	蕭開平IV
		端	蕭開去IV
	功一 東開平	匣	肴開去II
		匣	庚開平II
	公一 東開平	来	豪開上
		匣	庚開平II
		匣	青合上IV
	攻一 冬合平	疑	麻開上II
	古一 模合上	渓	先開平IV
渓	苦一 模合上	幇	魂合上
		見	皆合去II
		見	斉開去IV
		見	先開平IV
		見	先開去IV
	口一 侯開上	暁	灰合上
		来	豪開上
		定	侯開去
		来	斉開上IV
		見	斉開去IV 2
		見	先開平IV
		見	先開去IV
疑	五一 模合上	見	模合去 3
		来	哈開平
		見	豪開平
		端	豪開去
		見	唐開入 2
		見	皆合去II 2
		見	肴開去II
		暁	肴開去II
		来	仙開入III A
		匣	斉開平IV

		見	斉開去Ⅳ
暁	呼－	泥	灰合去
	模合平	匣	桓合入
		見	唐開入
		匣	覃開平
		見	肴開平II 2
		見	麻開平II
		見	麻開去II
	火－	見	豪開平
	戈合上	見	唐開入
		見	肴開平II
		見	支合平IIIA甲
		影	幽開去IIIA甲
匣	胡－	見	唐開平
	模合平	見	唐開入
		見	覃開上
		生	江開平II
		見	江開入II
		匣	麻開上II
		見	麻開去II
		見	麻開去II
		見	麻開去II
		影	麻開去II
		見	耕開入II
影	烏－	匣	唐合平
	模合平		

		見	麻開平II
		匣	斉開平Ⅳ
		来	蕭開上Ⅳ
		明	青開去Ⅳ

II 類

声母	上字 上字韻母	下字 声母	帰字 韻母	帰字 類	反切延べ数
生	山－ 山開平	見	肴開平		
		渓	庚開入		
		日	支開上IIIA		
匣	下－ 麻開上	見	皆開去		
		見	麻合平		
		見	庚開平		
		見	戈合上I		
		見	先開入Ⅳ		

IIIA 甲 類

声母	上字 上字韻母	下字 声母	帰字 韻母	帰字 類	反切延べ数
幇	必－ 真開入	日	支	上	
		日	脂	去	
		羊	宵	平	

		匣	山 平 II
見	紀－之開上	于	塩開平
群	其－之開平	見	真開平 乙
		来	仙開平
		章	仙合平
		于	仙合平
		于	塩開平
		于	虞合上III B
		疑	元開平III B

IIIA 類

声母	上字 / 上字韻母	下字 / 声母	帰字 / 韻母	帰字 / 類	反切延べ数
精	子－之開上	日	支開上		
		心	脂開平		
		邪	脂合去		
		羊	仙合平		
		日	侵開入		
		見	東開平 I		
		来	東開去 I		
		来	陽開去III B		
		羊	尤開平III B		
		来	斉開上IV		

滂	匹－真開入	来	脂 上
		日	真 平
		来	仙 入
		羊	宵 平
		明	宵 去 甲
並	頻－真開平	羊	宵 平
影	一－真開入	羊	仙合上
		羊	宵開平
		心	宵開上
		心	宵開去
		章	清開去
		常	塩開入
		羊	塩開入
		匣	侯開平 I
		匣	侯開上 I
		見	麻開平II
		疑	蕭開平IV
		端	添開上IV

IIIA 乙 類

声母	上字 / 上字韻母	下字 / 声母	帰字 / 韻母	帰字 / 類	反切延べ数
幇	彼－支開上	明	脂	上	乙
		見	宵	平	乙
		常	侵	上	

従	字－之開去	羊	仙合上
心	思－之開平	見	唐開入Ⅰ
邪	似－之開上	心	祭合去
崇	仕－之開上	見	真開平ⅢA乙
		見	皆開平Ⅱ
章	只－支開平	日	真開平
	之－之開平	日	支合上
		日	真開平
		羊	仙合上
		羊	仙合入
		常	清開平
		常	清開平
		羊	清開平
		常	清開入
		精	塩開平
		常	塩開入　2
		章	魚開去ⅢB
		来	東開入ⅢB
書	試－脂開去	羊	清開入
	失－真開入	見	尤開去ⅢB

常	時－之開平	澄	宵開去
		章	陽開上ⅢB
日	而－之開平	羊	仙合平
		羊	仙合入
		常	虞合去ⅢB
	人－真開平	澄	仙合平
		羊	仙合平
		羊	仙合入
		章	塩開平
		羊	虞合去ⅢB
羊	以－之開上	昌	諄合入
	尹－諄合上	影	真開入　甲
	亦－清開入	日	脂開去

ⅢB　類

声母	上字 / 上字韻母	下字 / 声母	帰字 / 韻母	帰字類	反切延べ数
幇	不－尤平	来	仙　入ⅢA		
滂	敷－虞平	疑	元　平		

	妨－陽平	幫	虞　去
並	扶－虞平	羊	鍾　去
		幫	文　平
		疑	元　平
		明	元　上
明	武－虞上	幫	微　上
		並	元　入
来	力－蒸開入	知	東開入
		知	陽開去
		章	尤開平
		端	豪開去 I
		日	支開上IIIA
		日	支開上IIIA
		心	脂開平IIIA
		書	脂合上IIIA
		章	之開平IIIA2
		従	仙合平IIIA
		章	宵開去IIIA
		見	侵開平IIIA乙
		常	塩開去IIIA
		常	塩開入IIIA
知	竹－東開入	澄	東開去
		羊	鍾合去
		来	陽開上
		見	江開入 II
		日	脂開去IIIA 2
徹	丑－尤開上	羊	魚開平
		影	魚開平
		于	虞合平
		来	陽開入
		日	陽開入
		見	庚開平II 2
		章	之開平IIIA2
		影	真開入IIIA乙
		常	清開平IIIA2
澄	丈－陽開上	羊	鍾合平
		見	麻開平II
		見	庚開平II 2
		常	支合上IIIA
		羊	脂開平IIIA
		見	之開上IIIA乙
	直－蒸開入	来	鍾合平
		羊	鍾合上
		羊	鍾合去
		羊	支開平IIIA
		影	支合去IIIA甲
		知	脂合平IIIA

	敕－ 蒸開入	見	江開入II
娘	女－ 魚開上	来	東開入
		見	魚開平
		幇	刪合上II
心	息－ 蒸開入	邪	脂合去IIIA
荘	側－ 蒸開入	見	尤開去
		見	麻開平II
		羣	之開平IIIA乙
		来	之開去IIIA
初	初－ 魚開平	疑	支開上IIIA乙
		来	侵開平IIIA
	楚－ 魚開上	疑	支開平IIIA乙
		来	侵開平IIIA
生	所－ 魚開上	見	肴開平II
		疑	支開平IIIA乙
		来	脂合去IIIA
		来	清開上IIIA2
		来	侵開平IIIA2
		来	塩開平IIIA
章	章－ 陽開平	常	塩開入IIIA
昌	昌－	来	東開入
	陽開平	日	魚開上
		羊	尤開平
		疑	尤開平
		見	哈開上I
		書	宵開上IIIA
船	食－ 蒸開入	章	蒸開去
		羊	蒸開去
		日	支開上IIIA
		来	仙開入IIIA
書	戍－ 虞合去	日	之開去IIIA
	式－ 蒸開入	見	尤開去
		日	支開上IIIA
		章	之開去IIIA
		常	宵開去IIIA
		羊	清開入IIIA
常	上－ 陽開上去	日	真開上IIIA
		見	仙合去IIIA甲
日	汝－ 魚開上	見	尤開去
羊	羊－ 陽開平	見	尤開上　2
		章	宵開平IIIA
	弋－ 蒸開入	来	東開入
		影	魚開平　3

		章	魚開去			影	元開入
		来	陽開去			澄	陽開入
		暁	陽開去			渓	之開上IIIA乙
		常	尤開去　2			于	祭合去IIIA
		見	尤開去			明	仙開上IIIA乙
		章	支開平IIIA			于	庚合上IIIA
		群	支開平IIIA乙			群	侵開平IIIA乙
		日	脂開去IIIA2	渓	去－魚開去	群	仙合平IIIA2乙
		章	仙開去IIIA 2				
		書	仙開去IIIA		丘－尤開平	来	魚開上
		常	仙開去IIIA			于	虞合上　2
		章	宵開平IIIA			于	虞合上
		書	麻開平IIIA			見	尤開上
		章	麻開上IIIA			来	祭開去IIIA
		常	清開平IIIA			章	仙合平IIIA
		章	清開上IIIA			群	仙合平IIIA2乙
		常	清開入IIIA			羊	宵開平IIIA
		日	侵開入IIIA				
見	居－魚開平	来	東開入　2	群	巨－魚開上	来	東開入　2
		羊	鍾合平			影	微開平
		羊	鍾合去			見	真開平IIIA乙
		疑	鍾合入			章	仙合平IIIA
		渓	微開上		鉅－魚開上	来	東開入
		群	虞合平			影	微開平
		于	虞合上			影	微開平
		疑	元開平　2			疑	元開平　2
		影	元開上				

		来	蒸開平
		見	脂合平IIIA乙
		来	仙開平IIIA
		于	仙合平IIIA
	距－ 魚開上	影	微開平
疑	牛－ 尤開平	影	元開上
		来	仙開入IIIA
暁	許－ 魚開上	渓	微開上
		于	微合上
		見	微合去
		見	微開去
		于	虞合平
		見	虞合去
		来	陽開上　2
		群	尤開平
		章	蒸開去
		群	之開平IIIA乙
		見	之開去IIIA乙
		章	宵開平IIIA
		見	宵開平IIIA乙
	況－ 陽合去	明	虞合去
影	於－ 魚開平	幇	文合上
		来	陽開上

		来	陽開去
		見	耕開平II 3
		疑	支合平IIIA乙
		疑	支合去IIIA乙
		来	祭開去IIIA
	迂－ 虞合平上	疑	支合去IIIA乙
于	于－ 虞合平	幇	陽合去
		疑	支合去IIIA乙

IV　類

声母	上字 上字韻母	下字 声母	帰字 韻母	帰字 類	反切延べ数
端	丁－ 青開平	匣	斉開平		2
		来	斉開上		
		来	青開入		
		見	模合去	I	
		匣	灰合平	I	
		見	寒開入	I	2
		来	豪開上	I	
		来	唐開去	I	2
		見	唐開入	I	
清	千－ 先開平	見	先開入		
		匣	模合上	I	

		従	咍開上Ⅰ
		影	寒開平Ⅰ
		従	戈合上Ⅰ
		疑	戈合去Ⅰ 2
		邪	諄合平ⅢA
心	先一	来	青開入 2
	先開平	来	豪開平Ⅰ
		来	唐開平Ⅰ
		見	唐開入Ⅰ
		匣	覃開入Ⅰ
		心	脂合去ⅢA
		来	仙開入ⅢA
		来	塩開平ⅢA
		日	塩開上ⅢA